

世B-312『新詳 世界史B』（平成31年2月20日発行）

箇所	平成30年2月20日発行の教科書の記載	平成31年2月20日発行の教科書の記載	備考
p.10 本文 8～10行目	約180万年前になると原人であるホモ=エレクトゥスが出現した。彼らはアフリカ大陸の外にも広がり、単純な言語を用いて集団で狩猟・採集し、	約240万年前になると原人が出現し、そのうちのホモ=エレクトゥスはアフリカ大陸の外にも広がった。彼らは単純な言語を用いて集団で狩猟・採集し、	より新しい研究成果を反映しました。
p.13 図① 図中		(北回帰線の挿入)	位置関係をとらえやすくしました。
p.28 側注1 3～5行目	婚姻権や裁判権など法による保護を受けた。	婚姻・相続・裁判などで法による保護を受けた。	市民権をもつ人々がどのような面で法による保護を受けているか、より明確になるよう表現を改めました。
p.32 写真① キャプション	初期キリスト教時代の地下共同墓所であったが、キリスト教徒迫害の際には避難所にもなった。	初期キリスト教徒の地下共同墓所として使用された。	より正確性の高い研究成果を反映しました。
p.37 本文 19行目 図③ 図中	その後 <u>に成立したモノモタパ王国</u> <small>11世紀～19世紀</small> モノモタパ王国（11世紀～19世紀）	その後 <u>に栄えたモノモタパ王国</u> <small>15世紀ごろ～19世紀</small> モノモタパ王国（15世紀ごろ～19世紀）	アフリカ南東部のザンベジ川・リンポポ川方面の台地では、牧畜や金交易に基づくいくつかの集団が栄えましたが、そのなかのモノモタパはポルトガルと強固な関係を築き、記録に残っています。
p.37 図③ 図中		(北回帰線・南回帰線の挿入)	
p.38 図② 図中 p.44 図② 図中 p.47 図① 図中 p.55 図① 図中		(北回帰線の挿入)	
p.63 図③ タイトル	<u>魏晋南北朝時代</u> （5世紀）	<u>南北朝時代</u> （5世紀）	
p.148 図④ 図中	ラバヌイ島（イースター）の位置： 図中	(北回帰線・南回帰線の挿入) ラバヌイ島（イースター）の位置： 図の中で現行より、南に約9mm、東に約7mmの場所へ	
p.161 本文 25行目	1559年、フェリペ2世は、国内で絶対王政を展開する一方、	イタリア戦争を有利な形で終結させたフェリペ2世は、国内で絶対王政を展開する一方、	イタリア戦争終結を契機に国内統治の強化が展開されたことを、理解しやすくしました。
p.168 側注1 3～4行目	メイフラワー号で <u>ニューイングランド</u> に移住した（→p.178）。	メイフラワー号で、 <u>現在のアメリカ合衆国北東部に位置するニューイングランド</u> に移住した（→p.178）。	ニューイングランドの位置関係を、理解しやすくしました。
p.185 本文 6～7行目	ヴァージニアなど南部の植民地は、 <u>タバコや綿花</u> などを	ヴァージニアなど南部の植民地は、 <u>タバコ</u> などを	南部の綿花栽培は、独立後の19世紀から盛んになります。
p.200 図① 図中	<ロシア外相>の位置： 図中	<ロシア外相>の位置： <メッテルニヒ>から右に2人目	
p.206 側注2 7行目	領土拡大に努めた。	領土拡大に努めた（→p.260）。	関連ページの記載を追加しました。
p.213 本文 10行目	アブデュル=メジト1世 <small>位1836～61</small>	アブデュル=メジト1世 <small>位1839～61</small>	
p.261 図③ 円グラフ	円グラフ（上）： <u>領土面積</u> 円グラフ（中）： <u>人口</u>	円グラフ（上）： <u>人口</u> 円グラフ（中）： <u>領土面積</u>	
p.282 図① 図中	枢軸軍占領地域： 図中	枢軸軍占領地域： 現在のマケドニアの北部国境を削除	

地図② 縮尺	スケールバーの数値： <u>1000</u> km	スケールバーの数値： <u>500</u> km	
地図① 図中	<u>ポンディシェリー</u>	<u>プドゥチェリー (ポンディシェリ)</u>	現地における正式市名の変更を反映しました。